■書　評

発達障害者の就労支援ハンドブック
ー自閉症スペクトラムを中心にー

梅永雄二　編著
金剛出版　2010年10月
200頁，定価　1,995円

発達障害を抱える当事者は，学校を卒業してもなかなか就労しないニートと呼ばれる一群の中に埋もれている．しかし，彼らは仕事をしたくないわけではない．彼らは，集団生活になじめず，いじめや虐待を受け傷つき，人とうまくやっていけないという違和感と劣等感を抱えて不登校や引きこもりとなってしまっている．その障害が軽度なほど周囲には気づかれずにいる．一見わかりづらい発達障害も，最近では注目を浴び，少しずつではあるが障害が認知されてきている．

この書は，発達障害，特に自閉症スペクトラムを中心にした就労支援をテーマとして，実践的に臨床に活かせる知識と工夫を紹介している．構成として，3つの章からなり，まず第一章では，編著である梅永氏が発達障害者のための就労支援の総論として，米国ノースカロライナ州で実施されているTEACCHプログラムを写真や図を用いてわかりやすく紹介し，さらに日本における現状に触れている．第二章では，就労支援の実際として，就労支援ジョブコーチの方法論，就労前の訓練，そして就労を維持しいくための工夫，就労支援グループモデル，関係機関との連携，発達障害の最近の傾向などを10名のエキスパートたちが事例を交えて紹介している．事例ごとに著者のコメントが添えられ，また，本文中に使われる専門用語をコラムとして取り上げ知識を補ってくれている．ここに著者の細やかな配慮が感じられる．一般就労に向けての道のりは険しく，スムーズに到達することは珍しい．途中で躓いたり，壁にぶつかったときに乗り越える方法を具体的に分かりやすく説明され，実践に役に立つ書と言っていい．事例のほとんどが知的障害を伴っているために，発達障害への対応のみならず知的障害者への就労支援においても参考になるであろう．「将来支援のこれから」と題する第三章では，いまだ十分とは言えない発達障害者の就労環境に対して，著者が抱く熱い思いが込められている．

今まで発達障害者に対する診療は，小児精神を専門にする医師に限られていた．しかし，成人になって初めて気づかれる高機能自閉症やアスペルガー症候群の存在がクローズアップされることによって，一般精神科医もその治療の一端を担うことが期待されている．彼らの関心事は，コミュニケーション障害を乗り越えて社会参加することである．書中で，「脊髄損傷による車椅子の人の場合は，移動が困難なために，スロープやエレベーターを使うことになにもクレームをつける人はないでしょう．～中省略～　社会性の理解できない人に協調性や集団参加を押しつけることは，『車椅子の人に立って歩きなさい』と言っているのとどこか異なるのでしょうか」ということがあらわしているように，周囲が何を彼らにしてあげられるのかを学ぶ必要がある．職場と患者との橋渡し役として，精神科医として何ができるのかを改めて考えさせられる書である．

（忽滑谷　和孝）